「　雨の盂蘭盆会　」　（　協同組合通信/風雪弾　）　15.8.21

春を忘れた猛暑の昨年。今夏も不順な天候が続く。全国的に高気圧に覆われた 4 月 18 日に、東京で最高気温 25.9℃を記録。早くも夏日の訪れで、またもや暑い夏かの思いがよぎった事だろう。入梅は、ほぼ平年並で、ここまでは順調。

その後の推移は一転。長くしょぼ降る冷たい雨。東北地方太平洋側の農家の禁句、やませで青息吐息。岩手の営農技術先駆者でもあった宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」を思い出された関係者も多かろう。昔も今も何ら変わっていない。

7 月 21 日、南九州各地で、梅雨末期の集中豪雨で大災害。豪雨による土砂災害で、水俣市の宝川集地区では、多くの兼業農家の田んぼと命が一瞬に失われた。茫然自失の報道に息を呑む。行政の事前・進行中・事後の対応の拙さが露呈。詳細は、農業新聞等各紙に詳しい。

関東甲信地方の梅雨明けは、平年より 13 日遅れの 8 月 2 日にずれ込んだ。

通常の梅雨明け 10 日の晴天は、とても望めない気圧配置と週間予報であった。

国民は、社会や経済に対する閉塞感で梅雨空以上の真っ暗モード。商店街の空気・世間の期待は、気象庁発表を一日千秋で待ち望む。ほとんどすがるような気持ちのスーパ・コンビニ・百貨店。

外交大好き小泉政権は未だ経済無策。高水準の失業率や消費の落ち込みの連続でも続く、タレント人気。経済は底無しで天気を上回る冷え込み。歴代内閣の中で際立つ深刻な状況に、ノー天気の内憂外遊。総武線は連日の人身事故。

自然の雄姿と偉大な癒しの力を無視し、経済一辺倒の便利社会を追い求め、毎年、この時期に雨と風で強烈なビンタを食らって意気消沈。人の噂も 75 日で、てんで懲りない人間の性。こんな時こそ、先祖の智恵を学びたい。

盂蘭盆会は、もとは陰暦 7 月 15 日に祖先の霊をまつる、仏教行事。今は、我国固有の伝承文化として定着。学校の夏休みと重なり、都会暮らしの働き者の一時の里帰り行事。今年はお盆の入りから明けまで、記録的大雨を記録した所が多い。一族揃ってのお墓参りと思い出話に、天気の話が加わった。

英気を養い、みんな元気になって帰っておいで。

（　気象情報システム株式会社　高　津　敏　）